

同窓会報



鳥羽商船同窓会

三重県鳥羽市池上町1番1号

郵便番号 517

電話 代表 鳥羽(0599)25-3137

振替番号 名古屋5-846

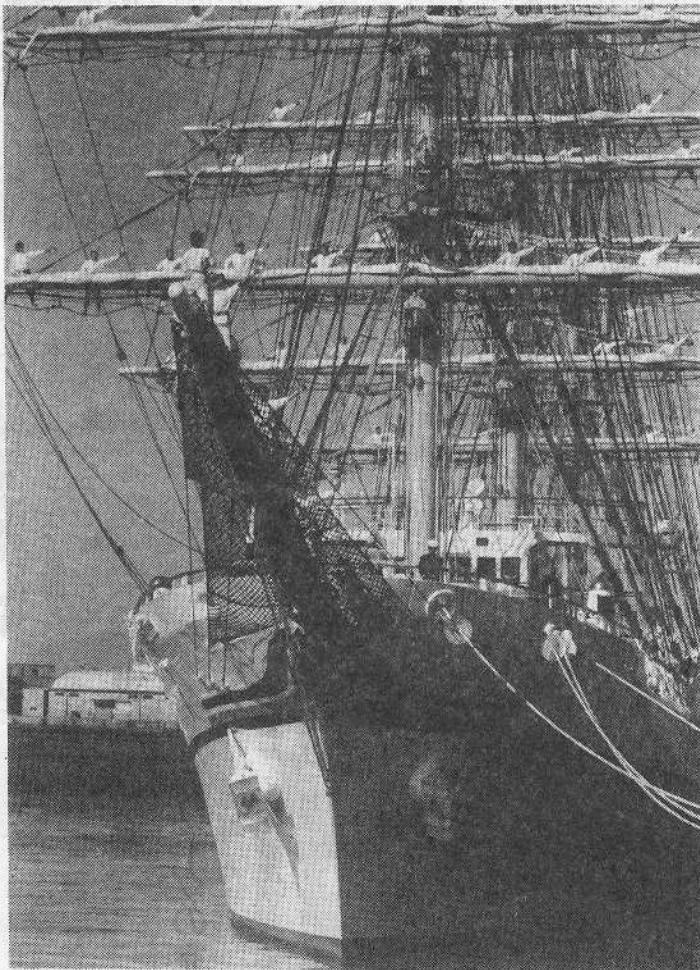
ごあいさつ

会長 西島好夫

年の瀬も迫り皆様方には何かと御多忙と存じます
が、ますます御健勝のことと御推察申し上げます。

かねてから皆様方にお計り申し上げて参りました、
同窓会創立六十周年もあと半年と迫りました。タン
カー業界を中心とする海運を取り巻く現状は大変嚴
しいものがありますが、海運が物流

システムの一環として位置付けられ
ております昨今の経済情勢のなかで
は致し方ない現象として受け止める
必要があります。繊維に始った開発
途上国の激しい追いあげは、鉄鋼、
造船、化学工業、海運さらには目下
我が国における基盤産業的存在であ
る、自動車や電子機器にも及ぼうと
しております。こうした事実に基く
母校の学科改組という母校の歴史上
かつてない一大転換期を迎えるに當
り、私共同窓生は今こそ一丸となつ
てこの難局に対処する行動が必要か



E4B 日下耕三撮影

本部便り

前報でもお知らせいたしました
同窓会創立六十周年記念総会は、

昭和六十年六月一日、神戸市三の宮のニユーポートホテルにおいて開催されることが決定されています。

母校の学科改組という、創立以来の一 大転換期を迎える明年を、
鳥羽商船同窓会の新しい時代に対
応するうえでの出発点とする意味
においてもその成功は大いに意義
あるものと期待されています。

母校の創基百周年記念事業に際して示した羽鳥商船同窓会の底力をいま一度我々自身のために見せたいものと関係者一同、同窓生各位の御協力ををお願いする次第です。

本部におきましては、落合、斎藤両理事が出席し去る八月下旬、神戸市の協成汽船(株)の会議室において、地元支部の神戸及び大坂支部の代表者と運営上の諸問題について討議する機会を得ました。その結果を御報告申し上げます。

するうえで実行委員会を構成する。

一、経費については、有志による資金協力を願いし、一部を本部負担とする。従つて会員からの募金は行わない。

三、記念総会は通常の本部総会とは異った形とし、百周年記念開館完成祝賀を兼ねて開催した昭和五十七年夏総会のよう、総

和五一年度総会のときに、総会に要する時間をできるだけ節約するか、印刷物の配布のよつ

四、できるだけ多数のしかも若い会員の参加を呼びかける意味から、懇親会は低額とし、出席してよかつたなあという声を聞くような方針で望む。

五、昭和五十九年度会報第二号（本号）で、記念総会への参加呼びかけならび記念誌への原稿を依頼する。

六、昭和六十年早々に、第二回の本部との連絡会議を持ち、記念総会の成功を推進する協力体制の確立をはかる。

同窓會創立

六十周年記念誌

母校の創基百周年記念誌の一部に、同窓会活動についても述べられていますが、いわゆる正史であるため、会員の生の声を収録されているわけではありません。

稿分は全部収録いたします。写真や各種資料でも結好です。

会員名簿の発行

き、従来以上に「求人・求職ネットワーク」を充実させる必要性を痛感します。

特に注目すべき事実は、若い会員の職場での定着率がかなり低下

できるだけ多数の会員からの原稿を集め、本部では各支部長を通じてお願ひしている次第です。すでに名古屋支部では、支部長名で依頼文を出して戴き、その成果が三十稿あまりと上つております。原稿を書くのはどうもどうも、会員も（きれいごとでなくとも結構です）

稿分は全部収録いたします。写真や各種資料でも結構です。

き、従来以上に「求人・求職ネットワーク」を充実させる必要性を痛感します。

特に注目すべき事実は、若い会員の職場での定着率がかなり低下していることです。この点については、支部を通じて本部に種々の不満がもたらされており、本部としましても大変憂慮している問題と受けとめています。

新卒会員が一、二年で止めているような企業に相變らず新卒者が送り込まれている姿は何か不自然であり、若い会員の不満がかなり高まっているのを解消する手段が必要です。

本部としましては、再就職についてではできる限りのお世話をしておりますが、新卒者を含む既卒会員がより有利な条件でしかも将来に希望がもてる企業への斡旋が肝

七、毎年本部総会の前夜に鳥羽周辺で開催されるクラス会や、最近各地で開催されているクラス会を神戸周辺で開催してもらいたい。その足で記念総会に参加するよう、丁度母校の創基百周年記念式典の前夜に、鳥羽周辺で二十四クラスのクラス会が開催されたのと同じ形をとつてもらうよう、各クラスに呼びかけを行なう。

三、学校及び学生に望む声
四、同窓会活動のあり方について
の提言
などなんでもよろしいかと存ります。本部としましては、原則として、原稿を戴いた方に対しては贈呈したい方針で進んでいます。
(但しあまりにもたくさん原稿が集つた場合は一部を負担して戴くこともあるかも知れませんがこの場合はよろしくお願ひします。)
現在七十稿あまりが集つています。

求人・求職

八口まで受つけます。記事と共に送つて下さいますようお願いいたします。〆切は一月末といたしましたのでお忘れなく。

求人・求職

ネットワークの充実

従来から各支部及び会員の御協力により、新卒者及び再就職希望者に対する支援活動を推進し、それなりの成果をあげてきました。しかし最近のように海上勤務の窓口が狭まり、陸上関係に転進せざるを得ない会員の立場を考えると、従来以上に「求人・求職ネットワーク」を充実させる必要性を痛感します。

特に注目すべき事実は、若い会員の職場での定着率がかなり低下していることです。この点については、支部を通じて本部に種々の不満がもたらされており、本部としましても大変憂慮している問題と受けとめています。

新卒会員が一、二年で止めているような企業に相變らず新卒者が送り込まれている姿は何か不自然であり、若い会員の不満がかなり高まっているのを解消する手段が必要です。

本部としましては、再就職についてではできる限りのお世話をしておりますが、新卒者を含む既卒会員がより有利な条件でしかも将来に希望がもてる企業への斡旋が肝

心
で
す

どんな情報でも結構ですが、本部まで御連絡下さいますようお願ひします。最近は電話による御連絡が多くなりましたが、事務局には、専任の係員がおりませんので文書を戴ければ確実に対応できますのでよろしくお願ひします。その際企業の内容を示すパンフレットなど関係資料を賜ればと存じます。

情報交換を行い、求人・求職ネットワークの充実をはかりたいと考えています。各会員におかれましてもこの趣旨に御賛同下さいます。ようお願い申し上げます。現在、求人、求職のいずれでも受付けております。会員関係の企業からの求人に對して新卒就職者が殆んどない点に対する会員の御不満に対しましても、本部が関与できない部分がありますことを御理解願いますと共に、その対策についてもお話ししたいと考えております。

処置が認められるのを待つ段階となつております。
しかし極く最近、新聞紙上で母校の昭和六十年度の学生募集が掲載されたのを見ますと、航海学科四十名、機関学科八十名となつてゐる点について、一体どうなつてゐるのかと会員からの問合せが参つており、本部としましてもそ

「学」ではなく、「鳥羽専科大学」となるのではないかというのが学校長の見解のようです。

昨年度の総会以来、母校の学科改組について多数の会員の御心配を戴いて参りましたが、あと一ヶ月でその決定を迎えることになります。

業委員会の発足、記念誌の基本構想などで大変お世話になりました。先生のあまりにも早い御逝去に關係者一同おどろいた次第です。葬儀は京都の名刹法然院で十一月十七日に盛大に挙行されました。本部では母校側と協力いたしまして

母校の学科改組と 校名変更

かねてからお知らせしてきました
たように、母校においては二クラ
スある機関学科の一クラスを昭和
六十五年度より陸上指向型の「電
子機械工学科」とする方針で対応
して参りましたが、その後特に進
展ではなく、現在大蔵省による予算

ることが考慮され、「専科大学」という名称が浮び上っています。この場合大学といつてもいわゆる大学令による大学ではなく、極めて特殊な形となることが予想されます。

称に統一された関係で、「工業高等専門学校」、「電波高等専門学校」「商船高等専門学校」との区別が

最も新しい情報としましては、去る十一月三十日京阪支部の総会での矢島校長の挨拶によれば、五商船高専はそろつて一クラスずつ既定どおりに改組することで進んでおり、学校名の変更が考えられていることが、同窓会に対してもは初めて公表されました。

「鳥羽商船工業高等専門学校」というのは非公式には表明されましたが、場合によつては全く異なる名称も考えられているようです。タイピスト学校、洋裁学校、

「商船學」を基礎として發展して参りました関係上、「商船」の二文字だけはなんとしても残すことが校祖近藤真琴先生に対する報恩というのが同窓会員全體の思いではないでしようか。

明治以来すでに一世紀に亘つて知られてきた母校の校名から「商船」の二字が消えることは、船員教育機関としての母校の前途が急速に凋落することが予想されるという意見が強いのは当然です。

京浜支部

谷川英一先生

第十四代学校長として昭和四十六年四月一日から昭和五十四年三月三十日まで八年に亘つて在職されました谷川英一先生が、僅か四日間の療養ののち去る十一月十三日に京都の病院で心不全で逝去されました。

京浜支部



日本丸(旧)デッキにて

をとり、なごやかな歓談のうちに幕を閉じた。

幕を閉じた。

そのほかの同窓生出席者氏名
江崎広治、浦田楠雄、押尾定夫、
佐野房雄、浅野和昭、林幹夫、李
家正晃、片岡久雄

次に

練習船日本丸の本、七月三十一日
に刊行されました。三百十七頁で
す。同窓関係では小島副会長、西

昭和59年12月15日



離れがはげしくなつて来ることを防止する意味から名古屋支部で世話を一五名選出し、その内代表及び代表の補佐5名で、他校の世話をと話合つて実務者いします。

山理事、山崎修理事、小生、塙越昭彦さん（51年船卒）と六人が執筆しています。会員の皆さんの御講読をおねがいします。

(S 17 N 浅野和昭記)



恒例の校歌合唱

(1) 五九年十月一一日名鳥会役員会総会に先だち議題等を審議する役員会を浜鮎で開催しました。出席者下記の通り、支部長市江義治（S 10 N）、山崎修（S 16 N）、本太郎・西川義徳・荒木修造（S 19 N）、羽根田勉（S 21 N）、加藤喜作（S 22 N）、佐々木基晏（S 35 N）、小林正司（S 43 N）、河本友美（S 44 N）、北野工（S 47 E）、宗接万太郎（S 48 N）、萩野武彦（S 53 N）、新入社員の（東海協和海陸）加藤敬三（S 59 N）計14名です。

（2）昭和五九年一一月一七日第一五回支部総会について。若い人、海上勤務者に開催日が判り易いようとに毎年一月第三土曜日として、二年目です。今回は熱田神宮の傍で名鉄神宮前駅の近く改裝された“べんてん”にて開催する。本部より落合・斎藤両先生の訪名を迎ぎ会員一九名の参加となりました。

山崎理事の司会に始まり、市江支部長の挨拶につづき、本部より

役員会は親睦を強化するため

に役員は若い人で、運営も若い

人で、多数参集する様に企画活

動することを期待しています。

（3）同窓会創立六〇周年の記念誌に記載する原稿の応募を会員約

二〇〇名にお願いして一月中

旬入手した三〇通分と対話方式

のカセットテープ四件（T-12

N 中村奇一）（T-14 N 林寿一）

（T-14 Z 田宮信夫）（S-3

E 安部源也）を一一月一七日送付しました。

（4）全協船東海支部設立について。

前述の通り、東海支部の設立の準備に関して各学校の世話を及

務者と種々討議。打合せして、

特に若い会員相互の親睦会を重

として、会議年度の期日を毎年九月三〇日と制定する。（従来は総会毎）

二、全日本船舶職員協会（全船協）東海支部設置準備について。現会員より中京地区での懇親会を

開催して親睦を深めないと会員門を編入させる問題等について）

及び同窓会創立60周年記念総会と記念行事等について説明を受ける。

議題については前記の役員会に基き報告し又審議をしました。

① 規約の改正は、役員会議事通

り、第一一条を補足決算期を毎

年九月三〇日と制定する。

（なお

役員の任期は六〇年九月三〇日

となります。六〇年の本部総会

の後、役員会を六月中旬と十

月旬に開催しますから多数のご

参加をお願いします。

（5）初参加のM・O・船長、野田

則之氏（S 34 N）は築港事務所

の海務監督に四月より就任、新

入社員（名港海運）西尾栄紀君

（S 58 N）など多士済々。

出席者…市江義治（S 10 N）、松

原操（S 10 E）、山崎修（S 16 N）、

山本太郎・西川義徳（S 19 N）、

上野久滋・日下昭（S 19-12 E）、

榎原孝一（S 21 N）、雨森大（S

22 N）、大山紀一（S 25 N）、竹村

弘士（S 28 N）、春口正一（S 30

E）、大澤則義（S 32 N）、野田則

之（S 34 N）、小林正司（S 43 N）、

北野工（S 47 E）、宗接万太郎

・大倉明人（S 48 N）、西尾栄紀

（S 58 N）計19名

以上で審議と報告事項を終り、

杯・グラスを交わし乍ら歓談し、

又自己紹介をし乍ら、全船協問題

の討議も交されていました。

最後は新しい校歌を先に旧校歌

と水泳の歌を唱つて八時三〇分解

散しました。

（6）会員の異動は死亡者T-12 N居郎記）

（7）名古屋港のP・Rについて

（8）名古屋港初寄港

（9）名古屋港のP・Rについて

（10）名古屋港初寄港

（11）名古屋港初寄港

（12）名古屋港初寄港

（13）名古屋港初寄港

（14）名古屋港初寄港

（15）名古屋港初寄港

（16）名古屋港初寄港

（17）名古屋港初寄港

（18）名古屋港初寄港

（19）名古屋港初寄港

（20）名古屋港初寄港

（21）名古屋港初寄港

（22）名古屋港初寄港

（23）名古屋港初寄港

（24）名古屋港初寄港

（25）名古屋港初寄港

（26）名古屋港初寄港

（27）名古屋港初寄港

（28）名古屋港初寄港

（29）名古屋港初寄港

（30）名古屋港初寄港

（31）名古屋港初寄港

（32）名古屋港初寄港

（33）名古屋港初寄港

（34）名古屋港初寄港

（35）名古屋港初寄港

（36）名古屋港初寄港

（37）名古屋港初寄港

（38）名古屋港初寄港

（39）名古屋港初寄港

（40）名古屋港初寄港

（41）名古屋港初寄港

（42）名古屋港初寄港

（43）名古屋港初寄港

（44）名古屋港初寄港

（45）名古屋港初寄港

（46）名古屋港初寄港

（47）名古屋港初寄港

（48）名古屋港初寄港

（49）名古屋港初寄港

（50）名古屋港初寄港

（51）名古屋港初寄港

（52）名古屋港初寄港

（53）名古屋港初寄港

（54）名古屋港初寄港

（55）名古屋港初寄港

（56）名古屋港初寄港

（57）名古屋港初寄港

（58）名古屋港初寄港

（59）名古屋港初寄港

（60）名古屋港初寄港

（61）名古屋港初寄港

（62）名古屋港初寄港

（63）名古屋港初寄港

（64）名古屋港初寄港

（65）名古屋港初寄港

（66）名古屋港初寄港

（67）名古屋港初寄港

（68）名古屋港初寄港

（69）名古屋港初寄港

（70）名古屋港初寄港

（71）名古屋港初寄港

（72）名古屋港初寄港

（73）名古屋港初寄港

（74）名古屋港初寄港

（75）名古屋港初寄港

（76）名古屋港初寄港

（77）名古屋港初寄港

（78）名古屋港初寄港

（79）名古屋港初寄港

（80）名古屋港初寄港

（81）名古屋港初寄港

（82）名古屋港初寄港

（83）名古屋港初寄港

（84）名古屋港初寄港

（85）名古屋港初寄港

（86）名古屋港初寄港

（87）名古屋港初寄港

（88）名古屋港初寄港

（89）名古屋港初寄港

（90）名古屋港初寄港

（91）名古屋港初寄港

（92）名古屋港初寄港

（93）名古屋港初寄港

（94）名古屋港初寄港

（95）名古屋港初寄港

（96）名古屋港初寄港

（97）名古屋港初寄港

（98）名古屋港初寄港

（99）名古屋港初寄港

（100）名古屋港初寄港

（101）名古屋港初寄港

（102）名古屋港初寄港

（103）名古屋港初寄港

（104）名古屋港初寄港

（105）名古屋港初寄港

（106）名古屋港初寄港

（107）名古屋港初寄港

（108）名古屋港初寄港

（109）名古屋港初寄港

（110）名古屋港初寄港

（111）名古屋港初寄港

（112）名古屋港初寄港

（113）名古屋港初寄港

（114）名古屋港初寄港

（115）名古屋港初寄港

（116）名古屋港初寄港

（117）名古屋港初寄港

（118）名古屋港初寄港

（119）名古屋港初寄港

（120）名古屋港初寄港

（121）名古屋港初寄港

（122）名古屋港初寄港

（123）名古屋港初寄港

（124）名古屋港初寄港

（125）名古屋港初寄港

（126）名古屋港初寄港

（127）名古屋港初寄港

（128）名古屋港初寄港

（129）名古屋港初寄港

（130）名古屋港初寄港

（131）名古屋港初寄港

（132）名古屋港初寄港

（133）名古屋港初寄港

（134）名古屋港初寄港

（135）名古屋港初寄港

（136）名古屋港初寄港

（137）名古屋港初寄港

（138）名古屋港初寄港

（139）名古屋港初寄港

（140）名古屋港初寄港

（141）名古屋港初寄港

（142）名古屋港初寄港

（143）名古屋港初寄港

（144）名古屋港初寄港

（145）名古屋港初寄港

（146）名古屋港初寄港

（147）名古屋港初寄港

（148）名古屋港初寄港

（149）名古屋港初寄港

（150）名古屋港初寄港

（151）名古屋港初寄港

（152）名古屋港初寄港

（153）名古屋港初寄港

（154）名古屋港初寄港

（155）名古屋港初寄港

（156）名古屋港初寄港

（157）名古屋港初寄港

（158）名古屋港初寄港

（159）名古屋港初寄港

（160）名古屋港初寄港

（161）名古屋港初寄港

（162）名古屋港初寄港

（163）名古屋港初寄港

（164）名古屋港初寄港

（165）名古屋港初寄港

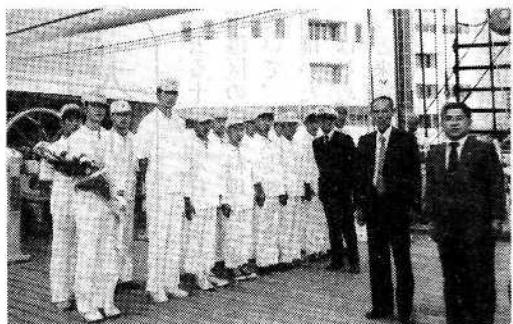
（166）名古屋港初寄港

（167）名古屋港初寄港

（168）名古屋港初寄港

（169）名古屋港初寄港

（170）名古屋港初寄港



母校卒業実習生への花束贈呈

直後、田辺船長に花束贈呈の依頼をしました。處、歓迎式典終了後、母校出身者の一六名が船尾に集合させて戴く手配には驚きました。（船長のご厚意を深謝しました。）練習生代表に市江支部長が花束を手交され健闘を熱望する挨拶をしました。（市江支部長、山崎理事名にはジュースを寄贈しました。）

後は森川勉実習生の案内で船内を見学しました。

旧日本丸OBの一員として船内を一巡して特に感じたことは①全通暴露甲板は新聞誌上の写真発表の通りです。②生徒室は同じく8ボングであるが、その内2ボングは船首方向に設置されており、部屋全体が広い。その分だけ部屋を出た所の広間は狭くなっている③女性専用の部屋（8ボング）浴室及び便所が設けられた。④公室には全てTV受像機があるのは時代の流れか。⑤マスト・ヤードハウスピリットは全て鋼製であった。

⑥総帆三六枚は旧日本丸より一枚多いがこれはスパッカーニ一枚に分けたためである。⑦マストは上甲板迄しか貫通していないながつた。

十月初日午後一時より、日本丸側の主催祝賀会には、市江支部長と山崎理事二人が招待され、訪船夜でした。

練習帆船は練習生にとって将来の資質の向上のための最良の手段であるから指導する乗組員各位の労苦に感謝しました。

次回の海王丸の代替建造は遅れています。

四日市港は本年、築港百周年、開港八十五周年を迎えることを記念する各種の行事が行われたのであります。中でもこの「海王丸セールドリル」は、四日市港の長い歴史と将来の発展を最も適切な方法で表現したものとして、この日の観客、並びに港湾関係者の胸に深く、永く刻み込まれたのであります。

わが四日市支部の同窓先輩諸氏もこのイベントには最初から第一線で参画し、あるものはプロジェ

会の諸子で日本丸乗組員（八名出席）歓迎パーティーを開催しました。出席者は

鳥羽OBはS16N山崎修、S

19N山本太郎、S21N羽根田勉、清水芳美、S22N山本茂、S24N関口昇、S28N竹村弘士、S29N水越勇生、S30N徳島博、S30N江頭昭雄、S34N野田則之、S36N大村公明、S39N安藤健治、

富山出身S36N森井良夫、広島出身S38N藤井康雄氏計一五名。海

洋会員・ヨット関係含め総計六

名となり盛大な宴会でS16N山

崎修の万歳三唱で午後八時散会

いたしました。

午後一時頃、長谷川元運輸大臣夫人が乗船され、約三〇〇人の見送りに登橋礼が、続いて音楽隊の吹鳴に始まり、タグボート二隻に曳航され午後二時出港しました。

四日市支部

『我らがマザーシップ
海王丸四日市で
セールドリル』

去る十一月十一日（日）午後、四日市港霞ヶ浦南埠頭岸壁に係岸

中の練習船海王丸は二万人を超える観衆の見守る中、ロープさばき

により、二十九枚の総帆展帆、海

の貴婦人と称されるその雄姿を見

事にドレスアップして、観衆の期

待に応えたのであります。

四日市港は本年、築港百周年、開港八十五周年を迎えることを記念する各種の行事が行われたのであります。中でもこの「海王丸セールドリル」は、四日市港の長い歴史と将来の発展を最も適切な方法で表現したものとして、この日の観客、並びに港湾関係者の胸に深く、永く刻み込まれたのであります。

わが四日市支部の同窓先輩諸氏もこのイベントには最初から第一

線で参画し、あるものはプロジェ

クトとなりました。

わが四日市支部の同窓先輩諸氏もこのイベントには最初から第一

</div

クトチームの一員として、あるものは実習生の伊勢志摩バス旅行の添乗員として活躍しており、また夜は荒川船長以下海王丸乗組員の皆様と昔懐しい一時を過ごしました。

私共四日市支部の多くは何らかの形で四日市港に関係があり、そのほとんどが四日市港の将来の发展を願つて、日夜努力しています。前述のとおり四日市港の歴史は古く、施設整備も順調に伸展しつつあります。が、入港船舶については、今一つ伸び悩んでいます。

全国各支部の皆様もそれぞれの職場で活躍のことと存じますが、機会があれば四日市港にもお立寄り願つて、四日市港発展のため是非皆様のお力を借りないと考えております。

最後に私ごとながら、このセールドリルと登檣礼を観て二十六年前の海王丸実習生時代を思い起し感概無量となつた次第であります。

(S 33 N 片山記)

去る十二月六日(木)に、大阪市港区の中華料理店「萬集樓」において、大阪支部役員の忘年会を開催いたしました。

はじめに、中西支部長のあいさ

つと来年神戸で開催される同窓会創立六十周年記念総会の実行委員会について若干の経過報告があり続いて、小原本部副会長から六十

周年記念総会記念誌の記事の応募数が少ないので、本部では、記事募集の締切りを本年十二月末から

来年二月末に延期し、さらに募集を行うこととした旨の報告がありました。

小原本部副会長の報告を受け、大阪支部では、当日の出席者全員が記事の応募を行うことを確認するとともに、同窓に対し、積極的な協力を広く呼びかけることとしました。

その後、西山理事の乾杯の音頭で、歓談に移り、和気あいあいの楽しい一夜を過しました。

最後は、長谷川理事の来年の六十周年記念総会を同窓の協力により成功させようとの言葉で締め括りました。

出席者(敬称略)

西山 誠作 (S 17 N)

小原 博 (S 18 N)

中西 勉 (S 18 N)

西岡 久三 (S 18 N)

長谷川俊治 (S 19 N)

島田 昭三 (S 21 N)

金沢 恒男 (S 27 E)

橋本 美和 (S 31 N)

吉田 和市 (S 41 N)

岡室 孝美 (S 52 N)

板東 秀樹 (S 53 E)

岡本 栄次 (S 55 E)

以上14名

(S 52 N 岡室記)



最後に私ごとながら、このセーラードリルと登檣礼を観て二十六年前の海王丸実習生時代を思い起し感概無量となつた次第であります。

(S 27 E 飯山記)

来年はいよいよ同窓会設立六十年のセレモニーを当地で迎えます。同窓の皆々様の力強い御支援をお願い申し上げます。

(S 27 E 飯山記)

学科の新設等、母校の現況について色々とお話しがありました。会

は正午に始まり自己紹介や落合先

生のお話しにつづいて、在学当時

の想出など話しあつきました。会

たが、十五時三十分来年度の再会

を約して開散しました。

出席者は次の通りです。

南 兵二 (S 4 E) 田畠秋一 (S 6 N) 大石 信 (S 9 E) 和田道夫 (S 10 N) 吉丸 登 (S 11 E)

藤林耕三郎 (S 19 E) 大谷隆文 (S 48 N) 外に本部より特別ご出席 落合先生 (和田道夫支部長記)

伊勢・志摩支部の活動状況について報告申し上げます。去る九月二十九日に挙行されました母校の昭和五十九年度の卒業式ならびに卒業祝賀パーティに、西川副会長、竹内、松本理事が臨席しました。

あいにく西島会長が日中友好記念青年派遣団の団長として訪中されていましたので、西川副会長が祝辞を代表されました。

支部総会についてもできるだけ早く機会をよう、西川副部長より

いわれておりますが、十一月一杯

までは鳥羽丸実習を始め、海学祭

など学校行事が続いている関係で、

忙しい処御来席をいただき、海運

界に於ける船員雇庸の減少傾向に

より実施されると思われる。新規

開催するべく準備いたしております。

ところで長らく母校の教官とし

て奉職され、同窓会副会長として

お世話を頼った谷口英雄先生が、最

近体調をくずされて家庭において

療養されています。

須永理事がこまめに元気付けを

して下さっていますが、支部とし

ましても理事にお願いしまして、

各地の同窓の皆様におかれまして

も、先生の病状が好転するようお

も、先生の病状

見舞いの手紙を賜ればと存じます。
楽しい話題としましては、テレビ
で皆様方御承知かと思
ますが、鳥羽水族館のラッコが大
変なブームを呼んでおります。

百周年記念館はエアコン付きで、
シーツも一回毎に変えてありますので
大変好評です。ぜひ一泊し、なつ
かしい鳥羽をお楽しみ下さい。
(落合理事記)

学校便り

◎入学試験 昭和五十九年二月九日～十一月
二月二日（木）、推薦入学面接
試験が本校で行われ、志願者二十
三名（N科十二名・E科十一名）
の中から十九名（N科八名・E科
十一名）が合格しました。

入学学力検査は、二月十九日
（日）に本校・仙台・東京・名古
屋・大阪の五ヶ所で行われました。
本年の入学志願者数は、百四十六
名（内推薦入学不合格の四名を含
む）で学力検査実質倍率は、一.
五倍とすこぶる低調で、推薦を含
め百二十四名（N科四十三名・E
科八十一名）が合格しました。

入学式は、四月十一日（水）に
本校第一体育館で挙行され、晴れ
合計百名（入学辞退者二十四名）
の新入生が入学しました。

◎新入生校外オリエンテーション
恒例の一年生校外オリエンテー
ションは、四月十六日（月）～十
八日（水）の三日間、鈴鹿青少年
八日（水）の三日間、鈴鹿青少年

スポートセンターで行われました。
初日は、四日港見学とオースト
ラリア館で昼食、午後は校長訓話
と映画「思えば遠くへ来たもんだ」
鑑賞、二日目は学生・寮務・教務
三主事、高木教官と松阪市朝田寺
住職・榎本義栄先生の「克己心に
ついて」の講話の間にスポーツと
映画「ジョニーは戦場へ行つた」
鑑賞、最終日は全体会議、反省会
と有意義なズケジュールでした。

◎新「日本丸」の船首像のための
寄付

六月十六日（土）と十八日（日）
の両日、校内に募金箱を設置して、
本校教職員・学生から寄付を募り
ました。その結果、十三万三千五
百円が集まり早速練習船教育後
援会へ送付しました。あまり多額
の小指の一部位にはなったものと
思われます。

◎体育大会

- ・第二十二回東海地区国立高専体育大会は、七月十四日（土）と十
五日（日）の両日、鈴鹿工業高等
専門学校で開催されました。選手
ボルとバトミントンが二位にな
ったにとどまりました。ただし個
人の部は、水泳で四百米・八百米
自由型リレーを大会新で優勝、百
米背泳でN五森川勉君が優勝に加
え二百米・四百米自由型でE-A
相樂秀次君が大会新で優勝し、一
年生だけに今後が期待されます。
- ・第十九回全国商船高専漕艇大会
は、七月三十日（月）と三十一日
（火）の両日、広島商船高専で開
催されました。カツタ一、ヨット
共に振いませんでした。特にヨッ
ト部は、昨年二位以下に格段の差
をつけ優勝しているだけに、今年
の四位は残念なりません。
- ・第十九回全国高専体育大会は、
八月九日（木）～十一日（土）に
かけ和歌山工業高専で開催され、
先の東海地区大会で二位のハンド
ボール部が出場し、一回戦秋田工
専を二十二対二十の接戦で破り、
ベスト八となりました。
- ・東海地区高専体育大会秋季大会
ラグビー競技は、十一月二十四日
（土）と二十五日（日）の両日、
鈴鹿工業高専で開催されました。
本校は、決勝戦で岐阜工大と対戦
し八対十と惜敗し、昨年同様二位
となりました。

◎公開講座

- ・「海洋教室」が、七月二十六日
（木）～二十八日（土）にかけ、
中部読売新聞社・報知スポーツ・
伊勢原・教職員より構成された
商船ゴルフ会では、年に数回定例
の型でコンペを開いております。
毎回一五名前後の参加をいただい
ておりますが、同窓生の方の参加
が、いまひとつ少ないということ
が悩みの種です。今年七月からは
「攻玉杯」という立派なカップも
できましたので、ゴルフを楽し
れる方は是非ご連絡下さい。
- なお、今後のコンペ予定は次の
通りです。

連絡先 中村浅吉氏
伊勢原 0596（25）0379
または鳥羽商船 0599（25）
3137 内線271（高木）
(S 49 N 高木春男記)

三重県下中学校の進学指導担当
の先生をお招きして、八月二日
(木)と三日(金)の両日、進学
説明会を行いました。本年は、会
場を鳥羽丸に移し、先生と入学希
望の中学生の伊勢湾内体験航海を
主体としました。初日は、先生二
十七名・生徒十九人、二日目は先
生十九人・生徒八人が乗船して、
一般説明（海運界の現状と将来、
船員について・卒業生の地位と待
遇・学校概要）・質疑応答・船内
案内が行われましたが、目的は十
分達成されたものと思われます。
また、本校から担当教官が中学
校に出向くP・R活動を、十月十
五日～十一月二日にかけ、東北・
関東・静岡・名古屋・大阪・神戸
・京都・奈良・和歌山地方に集中
的に行いました。こうした活動は、

ゴルフコンペ開催のご案内

同窓生・教職員より構成された
商船ゴルフ会では、年に数回定例
の型でコンペを開いております。

S 59 12月24日(月) 賢島CC
(受け付け〆切：12月14日)
S 60 3月19日頃 場所未定
6月1日（学校創立記念日）

7月20日（海の記念日）
8月30日頃
10月10日頃
日
連絡先 中村浅吉氏
伊勢原 0596（25）0379
または鳥羽商船 0599（25）
3137 内線271（高木）
伊勢原 0596（25）0379
または鳥羽商船 0599（25）
3137 内線271（高木）
(S 49 N 高木春男記)

三重県下中学校の進学指導担当
の先生をお招きして、八月二日
(木)と三日(金)の両日、進学
説明会を行いました。本年は、会
場を鳥羽丸に移し、先生と入学希
望の中学生の伊勢湾内体験航海を
主体としました。初日は、先生二
十七名・生徒十九人、二日目は先
生十九人・生徒八人が乗船して、
一般説明（海運界の現状と将来、
船員について・卒業生の地位と待
遇・学校概要）・質疑応答・船内
案内が行われましたが、目的は十
分達成されたものと思われます。
また、本校から担当教官が中学
校に出向くP・R活動を、十月十
五日～十一月二日にかけ、東北・
関東・静岡・名古屋・大阪・神戸
・京都・奈良・和歌山地方に集中
的に行いました。こうした活動は、

他の商船四校も盛んに行っていますが、中には中学校で他校のP.R員とぶつかるといったこともあります。

◎入学生の新募集要項

来年度から、視力を緩和して○

・以上、色覚は色弱可（色盲不可・但し新学科の電子機械工学科可）とになります。

◎施設・設備の拡充

・パソコン（NEC PC・8801マ172 モデル10）三十

八代が電子計算機室に設置されました。購入額は五百六十万円。

・万能試験機（島津製作所 T-YH H・30）一台が、実習工場に設置されました。購入価額は、四百八十万元。

◎卒業式

第十三回卒業証書授与式は、九月二十九日（土）に第二体育館で、

来賓・父兄・教職員及び在校生等多数参列のもと挙行されました。

本年度の卒業生（高専十三期生）はN科十六名 E科四十二名です

が、優等賞・皆勤賞・精勤賞・日員協会賞・富岡賞・全日本船舶職員協会賞・成山堂賞を多数が受賞しました。

式終了後、卒業祝賀パーティーが第一体育館で催されました。長びく海運不況と就職試験・国家試験を目前にした卒業生の顔には、晴れやしい中にも緊張感が漂っていました。

今年の就職戦線は、求人は海上陸上あわせて卒業生の何倍にも達していました。

しますが、会社内容となると今までの卒業生があまり就職しなかつた中小企業が主体を占め、相変わらず厳しい状況といえます。

◎鳥羽丸の日本気象協会への協力

野島崎東方海上の巨大船沈没解明を目的とした巨大波観測用ブイ（アルゴスブイ）の海上投下につき、日本気象協会から依頼があり、鳥羽丸が協力しました。N3遠航

実習中の十月三十一日（水）正午に潮の岬東方三十海里の地点に無工衛星経由でデーターを送りながら東に漂流しています。

◎海学祭

第十九回海学祭は、十一月十日（土）と十一日（日）の両日開催されました。今年のメインテーマは、「平和への架け橋は七色の海」を越えて」とし、平和展・ニューメディア展・鳥羽丸公開・パザール・スリランカ・フィージー・エジプト・象牙海岸・タンザニア・インドネシアの九ヶ国九名の研修者、午後三時間本校施設全般を見学していただきました。

・十一月十七日（土）攻玉社中学校第三学年の生徒百八十九名他引卒教員七名が、関西方面への修学旅行の途次来校され、近藤翁慰靈碑の参拝に引き続き校内全体を見学していただきました。

◎新任教官

昭和五十九年四月一日、次の四名の教官が就任されました。

○森島清忠教官（昭和三十四年九月東京商船大学航海科卒業・日本郵船KK・東京出身・本校航海学科教授として就任）

○小山道夫教官（昭和四十九年九月本校航海学科卒業・山下新日本汽船KKから派遣・名古屋出身・

経営実務コースを研修中の海運発展途上国の一行為、来校されました。アルジェリア・バングラデッシュ・エジプト・インドネシア・アイボリーコースト・パキスタン・ペルー・ソロモン・スリランカ・タンザニア・台湾の十一ヶ国十二名の研修者は、本校施設全般を午前中約三時間にわたり、くまなく見学していただきました。

・十月二十一日（水）、同じくJICA主催の船員教育行政コースを研修中の海運発展途上国の一行為、来校されました。バンガラデシ・シユ・フィリピン・シンガポール・スリランカ・フィージー・エジプト・象牙海岸・タンザニア・インドネシアの九ヶ国九名の研修者が、来校されました。

○片岡高志教官（昭和五十八年九月神戸商船大学東海実習科航海課程修了・東海市出身・本校航海学

科助手として就任）

四教官の学生指導と研究が期待されます。

◎退任教官

昭和五十九年三月三十一日、次

（中村武史理事記）

二教官の今後の御健康と御活躍を祈っています。

クラス会

鳥羽商船卒業五十周年 記念クラス会

昭和九年（51期）



昭和五十九年 鳥羽商船卒業五十周年記念クラス会

○守谷貞幸教官（昭和五十年三月水産大学校機関学科専攻科卒業・第一中央汽船KKから派遣・倉敷出身・本校機関学科助手及び鳥羽丸一等機関士として就任）

○片岡高志教官（昭和五十八年九月神戸商船大学東海実習科航海課程修了・東海市出身・本校航海学

科助手として就任）

○岡本吉範教官（本校航海学科卒業後、昭和五十六年四月一日から三年間の任期を終え、山下新日本汽船KKに海上復帰。浜島町在住）

○橋本晴行教官（本校機関学科卒業後、昭和五十七年四月一日から二年間の任期を終え、第一中央汽船KKに海上復帰。浜島町在住）

○橋本晴行教官（本校機関学科卒業後、昭和五十七年四月一日から二年間の任期を終え、第一中央汽船KKに海上復帰。浜島町在住）

○岡本吉範教官（本校航海学科卒業後、昭和五十七年四月一日から三年間の任期を終え、山下新日本汽船KKに海上復帰。浜島町在住）

の二名の教官が退任され会社に復帰されました。

○岡本吉範教官（本校航海学科卒業後、昭和五十七年四月一日から三年間の任期を終え、山下新日本汽船KKに海上復帰。浜島町在住）

二教官の今後の御健康と御活躍を祈っています。

（中村武史理事記）

二教官の今後の御健康と御活躍を祈っています。



芦の湖にて

翌二十一日(日)は、各自同窓会章をあしらつた名札を胸につけて、箱根登山電車・ケーブルカー・ロープウェー・芦の湖観光船とフリーパスで乗り継いで団体行動した。名札は意外な威力を発揮した。ひとつは、団体行動なんだという自覚に立つて、実行委員の統制にすなおに服従してくれたことである。名札をつけてもらつて乗物を待つ級友のあどけない顔付きは、彼等の小学校のころの面影をほうふつとさせた。いまひとつは、同行の観光客も名札のTOBAMER CANTILE MARINE COLLEGE ALUMNI の合唱、最後におきまりの「渺茫遠く」を大合唱した。

から、まことにもつてめでたい次第である。フイナーレは、アンケートによるわが青春の思い出のうた最高人気曲「酒は涙か溜息か」
（文部省）「恋と夢」（男学生）

ASSOCIATIONに敬意を表してください。休日の混雑のなか、ケーブルカーも観光船も一団となって乗れるようにしていただいたことである。同窓会章についてご配慮賜わりました母校の中村先生に厚くお礼申しあげます。この日は、雲ひとつない秋晴れで、ロープウェーのゴンドラの窓から白雪の富士を仰いだときは一心思わず息をのんだ。観光船は強風のため元箱根で下船解散。そこはかとなない離愁ただようなか、三々五々帰路についた。来年は母校入学五十五周年記念クラス会であ

昭和五十九年九月二十四日
幹事 望月武夫

昭和十年卒業(52期)

る。開催地は再び関東方面、実行委員会反省会は来年のクラス会の第一回打合わせ会をかねて、すでに行われた（吉原・横尾・中村・

ASSOCIATIONに敬意を表してください。休日の混雑のなか、ケーブルカーも観光船も一団となって乗れるようにしていただいたことである。同窓会章についてご配慮賜わりました母校の中村先生に厚くお礼申し上げます。

この日は、雲ひとつない秋晴れで、ロープウェーのゴンドラの空から白雪の富士を仰いだときは一
同心わず息をのんだ。観光船は強風のため元箱根で下船解散、そ
はかとない離愁ただようなか、三
々五々帰路についた。来年は母校入学五十五周年記念クラス会であ

湯河原厚生年金会館にて

夕刻小田原駅にて来年の再会を約し、或る者は子息のもとへ、或る者は尚旅を続行、別れ行く姿は人並の古稀の人として人波の中に消えて行つた。

烈な台風に突入、夜明けには艦艇の姿は無く、大多数の艦艇が大沈没、以後一年間連合艦隊は一として西洋に出る事は無かつた。世に言う空白の戦記として、今半書店を賑わしている、「今頃出港時間でした」と、当時の思い出語るや俄然十七期予備練習生となり、宴は十倍の盛り上りをみせた。二次三次会と夜の明けるも知らず語り明かす。

翌日は秋晴の青天、総勢十三名にて箱根観光へ。関所に、湖上にて桃源台へと、地獄谷の噴煙を眼下に眺め、秋の一日を堪能した。

ふな会
(昭和二十七年卒69期)

多數の出席者

	G'R	H'D	N'T
梅 村	105	22	83
柳 田	90	8	82
飯 山	93	10	83
金 沢	98	21	77
木 下	110	26	84
大下倉	88	9	79
森 尾	104	23	81
森 脇	90	15	75

主・山田利美・山本新
ふな会の皆様へ 西山
理・山本新
(斎藤隆記)

級友のあどけない顔付きは、彼等の小学校のころの面影をほうふつとさせた。いまひとつは、同行の観光客も名札のTOBA MERR CANTILE MARINE COLLEGE ALUMNI

幹事は九州、四国遠路より遙々の出席を謝し、又欠席者の近況を報告し、四十九年前の今月今夜、当時の思い出を語る。

A black and white group photograph of fifteen individuals, likely a professional team or organization, from the mid-20th century. The group is arranged in two rows: a back row of ten people standing on a raised platform, and a front row of five people seated on a lower surface. The men in the back row are dressed in dark suits and ties, while the women are in light-colored blazers over dark skirts. The women in the front row are also in blazers. They are positioned in front of a large, dark, modern-looking building with a flat roof and a balcony.

湯河原厚生年金会館にて

夕刻小田原駅にて来年の再会を約し、或る者は子息のもとへ、或る者は尚旅を続行、別れ行く姿は人並の古稀の人として人波の中に消えて行つた。

烈な台風に突入、夜明けには艦艇の姿は無く、大多数の艦艇が大沈没、以後一年間連合艦隊は一として西洋に出る事は無かつた。世に言う空白の戦記として、今半書店を賑わしている、「今頃出港時間でした」と、当時の思い出語るや俄然十七期予備練習生となり、宴は十倍の盛り上りをみせた。二次三次会と夜の明けるも知らず語り明かす。

翌日は秋晴の青天、総勢十三名にて箱根観光へ。関所に、湖上にて桃源台へと、地獄谷の噴煙を眼下に眺め、秋の一日を堪能した。

話の内容は身体のことにつながります。宴が始まるとい、アルコールの廻りにつれ、岡崎コンパニオンのお嬢さんと共に、宇田川君の漫才、カラオケといつしか寮生活の再現

前略
クラスメートの皆様方、主人の
前中は、大変お世話かけまして、
入院中はお見舞を頂く等、重々
御厚情誠に有難うございました。

本人も手術後一番気にかけて、
口ぐせの様に早く快復して蒲郡に
せめて顔だけでも出したいと言つ
て居りました。

まさかこの様な結果になるとは
夢にも考えず、ただ元気になれる
ことを信じておりました。

それ故に、私共のショックも大
きく大黒柱を失った事の重大さが、
今骨身にしみる思いでござります。
しかし、まだ二人の子供が肩に
かかるつて居ります故、悲しむより
明日よりの事を考え、歩む道を開
かねばなりません。

でも、今生きていけるのも、主人の御陰と仮前に語りかけるのです。素晴らしいお友達に恵まれて過ぎた五十二才の人生でしたが、息子がお父さんは、太く短く生きたのだ、あれで結構やりたい事、やつたみたいだし、お父さんらしいね

高校十期生(80期)



懷舊志慶讀先記念 故事名目錄著錄

が咲く楽しい宴となりました。途中、乗船中の第一中央汽船KK一帆・一機の加藤・清水両君の祝電が披露され、その文中の「次回はソウルで」に一同大爆笑。外国とまではいかなくとも、関東地区に職場を持つ級友の便を考慮して、次回は熱海ということを約束して改会しました。

当日の出席者は、次のメンバーでした。

小島広志・田仲徹生・本山幹夫
・池田勝彦・中村武史・浜口新次
原嘉明・彦坂正行・広瀬肇・
水谷重暉・長田正純・村田健

あいにく現在船会社に勤務している者がほとんど乗船中であつたためか、参加者は一一名と思つた程多くはありませんでした。

しかし、会の方は、現在の状況商船学校当時の思い出等々を語り合い、その後二次会、三次会と懐しい鳥羽の夜に繰り出し、カラオケに興じるとともに快飲し、盛況の内に幕を閉じました。

会（幹事は西山君の予定）を約して、散会しました。

尚、参加者は、以下の通りです

伊藤文治・内山陽一郎・岡崎吉則・財田充郎・中村利多加・中西哲也・西山明・松本吉生・山田睦美・山本雅拾・驚栗喜代志

最後になりましたが、同期の杉原修君が本年七月二十四日にガンが原因で他界されたことを報告するとともに、同君の御冥福を心よりお祈り致します。

同窓会費納入者

自五九年七月一日至五九年十一月十六日

二七、三〇〇円	菅原 昌男	33	科
一八、〇〇〇円	田村 辰夫	22	
一五、〇〇〇円	大野 純亨	19	
一三、五〇〇円	田沢 進	12	
一二、〇〇〇円	奥田 一男	34	
一〇、五〇〇円	浦上 達夫	41	
九、〇〇〇円	山村 実	25	
七、五〇〇円	梶山 一郎	30	
六、〇〇〇円	田丸 修	21	
五、〇〇〇円	古妻 秀夫	21	
四、〇〇〇円	江口 久吾	17	
三、〇〇〇円	高橋 慶越	55	
二、〇〇〇円	喜弘 進	28	
一〇、〇〇〇円	藤田 古川	22	
九、〇〇〇円	林 山尾	19	
八、〇〇〇円	市郎 博一	12	
七、〇〇〇円	市郎 輝	17	
六、〇〇〇円	安宮 真一	19	
五、〇〇〇円	小笠原典城	51	
四、〇〇〇円	鹿野 秀治	12	
三、〇〇〇円	岸 聚	48	
二、〇〇〇円	大西 浅見	36	
一〇、〇〇〇円	広田 寿昭	39	
九、〇〇〇円	政男 彰夫	19	
八、〇〇〇円	武藤 兼広	42	
七、〇〇〇円	瀬口 崇弘	52	
六、〇〇〇円	藤田 藤田	17	
五、〇〇〇円	小林 正司	43	
四、〇〇〇円	宗平	21	
三、〇〇〇円	正司	16	
二、〇〇〇円	迪滋	14	
一〇、〇〇〇円	小牧	16	
九、〇〇〇円	終森口新一郎	21	
八、〇〇〇円	上野 善治	17	
七、〇〇〇円	古妻 秀夫	21	
六、〇〇〇円	澤藤 敏	21	
五、〇〇〇円	宗平	16	

『クラス会』

S 15年卒（五十七期）

母校、創立百周年記念式典に合せ、昭和五十六年十月三十一日、私達のクラス会を鳥羽の錦浦館において開催しました。百周年記念行事も恙がなく盛大に終了し一段落の後でもあり、その後二年間中断しておりましたが、今年は復活すべく検討の結果、十一月十九日(月)、西伊豆戸田の「ホテルときわや」(S 33E尾鷲氏経営)にて開催致しました。

当日、十三時に東海道新幹線三島駅に集合、修善寺駅より出迎えのマイクロバスにて戸田に向い、島駅に集合、修善寺駅より立寄り途中歴史上名高い修善寺自然見物し、再びバスにて修善寺自然公園より戸田峠を経てホテルに到着しました。晴天なれば戸田峠附近より眺める富士は素晴らしいとの事でしたが、当日は低気圧が本洲南岸沿いに東進していたために視界が悪く、眺望は出来得ず本当に残念至極でした。

ホテルに到着後、尾鷲さんの奥様に、ご挨拶の際、「ご主人は」とお聞きしたところ「あら、主人が今日は自分でお迎えに行つて来るからと修善寺駅までお迎えに行きましたが?」ご挨拶致しませんでしたか?」との事で、当方もびっくりして、尾鷲さんにご挨拶申上げた次第でした。夕食までの間を雑談を交えるながらのクラス会を

①一ヶ年間の同窓会の活動、学校の現況
②昭和六十年度本部総会について及びクラス会の開催についての意見の交換。
③今回のクラス会に出席予定であった機関科庄村善隆氏が十月二十四日病氣にて入院先の病院にて死亡された件について、ご遺族よりのご連絡にもとづいて報告し、出席者一同の総意により加藤卓雄、船木照生の両氏に代表として弔問をお願いした。

以上の話合いの後、雑談に移り午後六時よりホテルの心盡しの鮮魚料理(当地は日本で只一ヶ所、足高ガニの産地)に、舌づみをして打ちながら、飲み、喰べ、更に仕事のこと家族の話題、健康の問題と盡きるところを知らず夜の更けとなるまで歓談が続き、ようやく二年間の空白を埋められたところで床につきました。

明けて十一月二十日、昨夜来の悪天候は回復せず、風と降雨が続

S 26年（六十八期）

十一月八日、名古屋船員会館において、忘年会を兼ねたクラス会を開催しました。もう少し多くの出席者が予定されましたが、急用で三本松君の出席が不可能となつたのを始め、予想外の欠席者があつたため六名というごく内輪の懇親会となりました。

特に古い元教官の消息については不明の部分がかなりあります。各年代の会員において、個人的に元教官と親しくしておられる方があるものと思われますが、情報を本部事務局までお知らせ下さいませ。

出席者が予定されましたが、急用で三本松君の出席が不可能となつたのを始め、予想外の欠席者があつたため六名というごく内輪の懇親会となりました。

会員の出版

前回発行の会員名簿を御覧にな

りますと、かなりの会員が消息不

明になっております。

本部事務局では、できる限り調査しておりますが、会員退職後転居され、しかも転居先が不明といふ方については、在学時代の学籍簿を参照して出身地に問い合わせるなど大変苦心しております。

個人的につき合つておられ、年

を戴けますようお願い申し上げま

開催。

崎を経て、午後三時頃下田にて観光バスと別れ、伊豆急行電車にて熱海に至り、午後四時過ぎ来年の神戸における再会を約して、別れを惜しみつゝ解散しました。

切角の機会で、皆んな大変楽しむにしていただけに悪天候に見舞われたのは、返すくも残念でした。

が、奇しくもクラス会直前になつて病死した故庄村善隆君の離別を惜しむ涙雨であつたかも知れません。ご冥福を切にお祈り致します。

尚当日の参加者は次の通りです

西岡光雄、宮増一郎、松岡清三郎、前田博、加藤卓雄、船木照生、押尾定夫

(押尾定夫記)

明年三月発行の会員名簿に、お世話になった元教官の欄を設けるべきであるという御意見を戴いておりますが、本部事務局においてすべて把握しているわけではありません。

現在お持ちの物で寄付して下さるものがいましたら是非お願ひ申上げます。また今後の航海で心にとめて下さればと思つております。百周年記念館は母校の歴史のみならず、会員の歴史であることを証明すべく会員の皆様の御協力ををお願いする次第です。

本部事務局からのお願い

恩師の住所調査

明年度の会員名簿に、お世話になった元教官の欄を設けるべきであるという御意見を戴いておりますが、本部事務局においてすべて把握しているわけではありません。

現在お持ちの物で寄付して下さるものがいましたら是非お願ひ申上げます。また今後の航海で心にとめて下さればと思つております。百周年記念館は母校の歴史のみならず、会員の歴史であることを証明すべく会員の皆様の御協力ををお願いする次第です。

*これら記事は十一月十五日に受取りましたのですに稿正がすんでいた関係でクラス会の個所に入れられませんでしたので御了承下さい。

百周年記念館に会員コーナーを!百周年記念館の整備が進められておりますが、会員コーナーを設けたいと考えております。会員の大半が海外に出掛けられているわけですが、めずらしい偶像や置物などが多数集まれば、すばらしくコーナーが出来上がるものと期待されます。

百周年記念館には会社の住所しかお知らせ願えない方があります。

講師として活躍される大槻彰氏が新しく出版され大変話題を呼んでいます。



乙巳年夏(五十一年)

同窓会創立60周年記念 昭和60年度本部総会の予告

昭和60年度は、同窓会が創立されて60周年となりますので、発祥の地神戸において盛大な記念総会とすることが決定されました。

日 時 昭和60年6月2日 正午より

場 所 神戸市三の宮 ニューポートホテル TEL 078-231-4171

時間等詳細につきましては、記念総会御案内で御知らせしますが、前日クラス会を神戸を中心に開催して頂き、多数の会員が出席されますよう各クラスの幹事がお取計り下さいますようお願いいたします。ニューポートホテルは特別に割引きしてくれることになっています。

同窓会創立60周年記念

〈昭和60年度版・同窓会員名簿〉発行

昭和59年度総会案内でお伺いしました同窓会員の御返事をもとに

来年3月中旬をメドに新名簿を発行いたします。

今後は5年毎に発行することとし、昭和65年まで発行いたしませんので、予約制で代金は2,300円（送料共）とし、同封の振替用紙で至急お申し込み下さい。

なお会員が乗船中あるいは海外駐在で不在の場合は御家族がかわってお申し込み下さい 2月15日締切。

★住所・職業・電話番号等が変更になった方は大至急お知らせ下さい。

（昭和59年度の総会の委任状を送って下さい）。

★なお会員から協賛広告を募集しています。一口5,000円ですからふるってお申し込み下さい。書体等もお知らせ下さい。

